

令和6年度入学式 式辞

本日、山梨大学に入学された学部生 893 名、特別専攻科 7 名、教職大学院 40 名、修士課程 250 名、博士課程 47 名の皆さん、入学、誠におめでとうございます。本学の教職員及び学生を代表して、皆さんの入学を心より歓迎いたします。

これまでの皆さんのご努力に敬意を表するとともに、皆さんを支えてこられたご家族及び関係者の皆様に喜びとお祝いを申し上げます。また本日は、大変お忙しい中、山梨県知事 長崎幸太郎様をはじめ、多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、心より感謝申し上げます。

今日、皆さんが入学された山梨大学は、2002 年（平成 14 年）に、旧山梨大学と山梨医科大学が国立大学では全国で初めて統合し、誕生した大学であります。

統合前の両大学の歴史に少し触れますと、旧山梨大学のルーツは約 230 年前の 1795 年（寛政 7 年）に、徳川幕府昌平黌の分校として設立された「徽典館」まで遡ることができ、現在の教育学部の原点となっています。

現在の山梨大学は、教育学部、医学部、工学部、生命環境学部の 4 つの学部、2 つの大学院、1 専攻科を有し、4,700 人余の学生と、約 3,100 人の教職員が所属しています。

「地域の中核、世界の人材」をキャッチフレーズとして、大学統合の際に掲げた『諸学融合』という精神のもと、専門領域の柔軟な融合により、さまざまな現代的な課題の解決に向け、全学一体で教育・研究・地域貢献に取り組んでいる総合大学であります。

これから、本学における教育・研究の取組みの一例をご紹介します。

教育面では、2019 年に、山梨県に協力いただき、山梨県立大学と連携し、一般社団法人「大学アライアンスやまなし」を設立して、我が国初の大学等連携推進法人の認定を受けました。この取組みは、学生の選択肢を広げる仕組みであり、「連携開設科目」を設定し、県立大学の授業科目を本学の学生も履修することができます。

この国立・公立大学間の連携は、全国から注目されており、文部科学省からも高く評価されています。

また、本学の特色ある教育の取組みとして、「何を学び、身に付けることができるのか」を明らかにした上で、学生の皆さんが主体的に学ぶことができるよう、学修者本位の教育を目指し、改革を進めています。

さらに、デジタル技術を活用したデータ分析などにより、入学前から卒業後までの一貫した相談・支援体制を整備し、学修面や生活・進路面での不安・悩みを解消できるようサポートしてまいります。

研究面での特色ある取組みとしては、水素エネルギー時代を牽引するクリーンエネルギーや燃料電池ナノ材料、山梨の文化・風土・地理的要因から育まれたブドウ・ワイン科学、世界トップレベルの発酵工学、先端脳科学などの活動を展開しております。

また、医学部附属病院においても、地域医療に力を入れつつ、最先端の臨床研究で成果を挙げています。

このように、高度かつ独創的な研究を推進するとともに、その成果を教育にも展開し、「真に地域の活性化を担い、世界で活躍できるグローバル人材の育成」を目指しています。

さて、コロナ禍で 中学校、高校時代を過ごしてこられた皆さんは、行動制限による臨時休業などにより、通学することができず、大変辛く厳しい思いをされたことと思います。

本学も同様でした。本来の大学とは、学生が講義や実験・実習の場で学びを深め、休み時間やサークル活動で仲間と語り合い、課外の活動に熱中することのできる場所です。

しかし、コロナ禍においては、本学においても対面での授業ができず、長期間にわたり、キャンパスに学生の姿が見えないという状況が続いておりました。

私も、この苦難の数年間を学生とともに過ごし、その日常を見続けた者として、言葉にできない辛さを経験しました。

その一方で、これまでのコロナ禍の行動制限によって、教育システムに多くの変化がもたらされ、リモート学習やオンライン授業が急速に普及し、さまざまな技術が発展しました。

皆さんもデジタル化された学びや、オンラインによる遠隔地との瞬時の接続など、平穏な時代では得られなかった技能を獲得したと思います。

ますますデジタル化されていく社会で、その技術を学び、身に付けることはもちろん大切です。しかし、最も大切なことは、その技術を扱う人間の能力です。

時代が進めば進むほど、大切になるのは、私たちの思考力、判断力であり人と関わりながら高めていくコミュニケーション能力であるということをしっかりと心に留めておいてください。

皆さんには、思考力や判断力、コミュニケーション能力を高めるため、ここ山梨大学において、多くの先輩や友人と関わり、たくさんの教員や職員と接してほしいと思います。

私は皆さんと同様に、ここ山梨大学の出身です。

学生時代は、教育学部で勉学に励み、同級生をはじめ先輩、後輩など多くの仲間に恵まれ、大変有意義な時間を過ごしました。教育学部以外の友人ともサークルやクラブ活動を通して知り合い、その交流は現在でも続いています。

山梨大学は学生と教職員の距離が、非常に近い大学です。どうか遠慮なさらず、教職員と関わりをもってほしいと思います。皆さん一人ひとりに寄り添い、有益なアドバイスをしてくれるはずですよ。

そして、本学の教職員や学生のみならず、OB・OGの皆さん、他大学や地域の方々などといった、さまざまな人々と知り合い、その縁を大切にしてください。

昨年、本学の卒業生で、2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生に、「縁尋機妙（えんじん きみょう） 多逢聖因（たほう しょういん）」という言葉をお教いただきました。

これは、「良い縁は良い縁をたずねて発展し、良い人と交わっていると良い結果に恵まれる。」という意味です。

大学時代に結んだ縁がさらに良い縁をよび、その良い縁で出会った良い人たちとの関わりが皆さんを良い人生へと導いてくれることと思います。

ぜひ、様々な方と関わり、良い縁を繋げ、広げていってください。

もう一つ、今日、皆さんにお伝えしたいことは、皆さんが持つ「無限の可能性」についてです。

これまでの義務教育や高校での学習と大学での学びの根本的な相違は、クリエイティブに自らの可能性に挑戦することです。

そして、その可能性は皆さんが様々なことに、自ら挑戦してこそ広がっていくものです。

皆さんは、多くのことに興味関心を持ち、果敢にトライする気持ちを持ち続けてください。

失敗したからダメなのではなく、なぜうまくいかなかったのかを分析し、その失敗を次のステップに活かすよう思考し、工夫していく、そんな生き方を、この山梨大学で、是非身に付けてください。

考える力、判断する力、わかりやすく伝える力、そして学びに向かう力を高め、かけがえのないこの大学時代を「無限の可能性」を大切にしながら成長を続けてください。

山梨大学は、学生の皆さんがより居心地よく学び、より充実した学生生活を送ることのできる大学を目指して、全力を尽くしてまいります。

ご家族の皆様、学長として私が責任をもって入学生の皆さんを導いてまいりますので、その成長を温かく見守ってくださるとともに、本学に対するご支援をお願い申し上げます。

あわせて、関係者の皆様におかれましては、本学に対する忌憚のないご意見などをお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

本日は、8か国から30名の留学生の皆さんが、学士課程、修士課程、及び博士課程に入学されました。ここで、留学生の皆さんに敬意を表し、英語でのスピーチをさせていただきます。

To all of our international students, congratulations on your admission and welcome to the University of Yamanashi. I admire your passion for learning and your decision to engage in the challenge of studying outside of your home country.

I offer my best wishes to all of you making a fresh start toward achieving your dreams.

You will have full support from all our staff at the University to expand and realize them.

Welcome to our university and congratulations to all of you today.

結びに、入学生の皆さんとご家族の皆様に、あらためて心底よりお祝いを申し上げ、私からの式辞といたします。ご入学、誠におめでとうございます。

令和6年4月5日
山梨大学 学長 中村和彦